

資源循環型施設建設に関する説明会 概要

【圏域】

1 開催概要

開催日時	令和5年7月31日（月）19：00～20：35	
開催場所	サントミュージゼ	
出席者	住 民	94名（圏域住民88名）
	行 政	土屋広域連合長、小相澤上田市副市長、他関係職員12名
	報道関係	- 社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	事業の進め方について	資源循環型施設の施設基本計画とまちづくりは本来別の話として進めるべきだ。	「安全・安心な施設」と「地域のまちづくり」を2本の柱として地域の皆様と協議しており、そのような趣旨を踏まえ、「安全・安心な施設」に関わる施設基本計画と、「地域のまちづくり」に関わる周辺整備事業について、説明会を開催した。
2		事業に反対している地域もあるが、本日の説明を基本として事業を進めることを遵守してほしい。	地元自治会等を対象とした説明会でも本日と同じ資料で説明しており、これを基本に進めていく。反対の立場である諏訪部自治会については、話し合いに応じていただけるよう引き続きお願いしていく。
3		資源循環型施設の現候補地には様々な問題があり、再検討すべきだ。	地域の皆様からご理解をいただけるよう、現候補地で覚悟を持って進めると広域連合長から常々申し上げている。

No	項目	質問・意見等	回答
4	施設の基本概要について	焼却対象物の可燃ごみとは具体的に何か説明してほしい。	現在、各市町村で可燃ごみとして分別区分しているごみで、資源循環型施設でも同様の分別区分とする予定。
5		焼却対象物の災害廃棄物には、原発由来の放射性廃棄物を含むのか。	放射性廃棄物は含んでおらず、資源循環型施設で受け入れる予定もない。上田地域内で発生した災害廃棄物进行处理できる施設を計画している。
6		焼却処理能力を 144 t/日と設定し、それを前提条件として環境影響評価を実施しているが、施設建設段階で焼却処理能力を 144 t/日より上げることはないと言明してほしい。	144 t/日を超える施設を建設することはない。
7		公害物質発生抑制の観点から、焼却炉の規模は適正か。	ダイオキシン類の公害防止対策や、ごみの減量など総合的な検証を行い、1 炉あたり 72 t/日の 2 炉構成とした。その条件下で施設が安全安心であるか科学的に検証するため環境影響評価を実施しており、検証結果を令和 6 年度にとりまとめる予定。
8	環境監視体制について	空間や土壌の放射能濃度を測定項目に加え監視してほしい。	測定する項目について、今後地元の皆様と協議をして締結予定の公害防止協定に明記していく。基本的には国の基準に沿って行う。
9		環境監視体制は、資源循環型施設だけでなく、建設候補地周辺の施設を含めた周辺全体でお願いしたい。	資源循環型施設の施設モニタリングと、周辺環境モニタリングの 2 つの監視体制をとってまいりたい。監視状況は住民の皆様にご公開していく。

No	項目	質問・意見等	回答
10	環境影響評価について	上田市西部地域の自治会の同意無しに、環境影響評価は成立するのか。西部地域まで地元協議の範囲を広げるべきだ。	環境影響評価は、客観的に現地を調査する手続きである。
11	搬出入ルートについて	建設候補地南側の千曲川堤防道路は完成堤防であり、一定の強度はあるようだが、上下流の堤防より道路幅員が狭く、パッカー車が走行するには危険だと思う。	現在、国土交通省の千曲川河川事務所と協議を行っている。その中で、清浄園及び上田終末処理場の南側堤防道路の拡幅による堤防強化について概ね了解をいただいている。 協議がまとまり次第、計画をお示ししていく。
12	事業方式について	DBO方式はうまくいっていないとの報告が多く、見直しがされていると認識している。事業方式の選定について、住民に説明した経過を教えてください。	施設基本計画を策定するにあたり、基本的な考えとしてDBO方式を選定し、今回初めて住民に説明している。 近年のごみ処理施設に関しては、DBO方式が全国的に主流であり、メーカーヒアリングの結果でも最も参入意欲が強い方式であったため、DBO方式を基本に検討を進めていく。
13	周辺整備事業について	現在のアクアプラザ上田はどうするのか。	新しい施設が整備されたら取り壊す。
14		周辺整備に関わる事業費の提示がない。資源循環型施設建設を推し進めるために、事業費が不明な状態で住民へ負担を求めるのは行政として無責任だ。	今後どのような整備をするか詳細な検討をするなかで、財源を含めてお示ししていきたい。 「安全・安心な施設」と「地域のまちづくり」を2本の柱として地元の皆様と協議しながら計画を進めていることについてご理解いただきたい。